

株式会社 堀場製作所

2018年12月期 第3四半期決算 電話説明会資料

常務取締役 管理本部長

大川 昌男

2018年11月9日

説明内容

1. 2018年12月期 1-9月実績
2. 2018年12月期 通期業績予想
3. 為替の売上高・営業利益への影響
4. 営業利益分析(前年同期比較)
5. 受注の状況
6. 設備投資額・減価償却費・研究開発費
7. その他トピックス

< 免責事項 >

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

1-1. 2018年12月期 1-9月実績

(単位:億円)

第3四半期 過去最高の売上高と利益を更新

		2017年	2018年	対前年同期増減	
★: 過去最高		1-9月実績	1-9月実績	金額	率
売上高		1,322	★ 1,460	+137	+10%
営業利益		146	★ 178	+32	+22%
営業利益率		11.0%	12.2%	+1.2p	—
経常利益		143	★ 175	+31	+22%
親会社株主に帰属する 四半期純利益		107	★ 134	+26	+25%
為替 レート	USドル	111.89	109.60	▲ 2.29	
	ユーロ	124.58	130.87	6.29	

1-2. 2018年12月期 1-9月実績 [セグメント別]

(単位:億円)

★: 過去最高

		2017年	2018年	対前年同期増減	
		1-9月 実績	1-9月 実績	金額	率
売上高	自動車	453	★ 483	+29	+7%
	環境・プロセス	120	★ 134	+14	+12%
	医用	185	192	+7	+4%
	半導体	385	★ 454	+68	+18%
	科学	177	★ 195	+17	+10%
	合計	1,322	★ 1,460	+137	+10%
営業利益	自動車	22	17	▲ 5	▲24%
	環境・プロセス	4	11	+7	+180%
	医用	12	13	+0	+6%
	半導体	111	★ 140	+28	+26%
	科学	▲ 4	▲ 4	+0	-
	合計	146	★ 178	+32	+22%

<自動車>

排ガスビジネス、ECT^{※1}ビジネスで売上増
MCT^{※2}ビジネスにおいて買収費用などが発生

※1 Engineering Consultancy & Testing(自動車開発全般に関するエンジニアリング・試験)
※2 Mechatronics

<環境・プロセス>

アジアでの水質計測装置、大気汚染監視用分析装置の販売増
米州ではプロセス計測設備事業が好調

<医用>

アジアでの血球計数装置の販売増
ユーロ高円安による売上高の円換算額増加

<半導体>

半導体メーカーの高水準な投資を背景に増収増益

<科学>

企業の研究開発用分析装置が販売増
米州での拠点強化に伴う費用などが発生

2-1. 2018年12月期 通期業績予想

(単位:億円)

自動車事業の投資増および半導体の市場動向を鑑み、売上高・利益予想を下方修正
 配当予想に変更なし

		2017年	2018年			
★: 過去最高		実績	前回予想 (8/3時点)	今回予想 (11/9時点)	VS 前年	VS 前回予想
売上高		1,953	2,120	★ 2,070	+116	▲ 50
営業利益		268	310	★ 275	+6	▲ 35
営業利益率		13.7%	14.6%	13.3%	▲ 0.4p	▲ 1.3p
経常利益		266	304	★ 269	+2	▲ 35
親会社株主に帰属する 当期純利益		162	215	★ 200	+37	▲ 15
為替 レート	USドル	112.16	110.00	110.00	▲ 2.16	—
	ユーロ	126.70	130.00	130.00	3.30	—

2-2. 2018年12月期 通期業績予想 [セグメント別]

(単位:億円)

★: 過去最高

		2017年	2018年通期			
		実績	前回予想 (8/3時点)	今回予想 (11/9時点)	VS 前年	VS 前回予想
売上高	自動車	733	790	★ 780	+46	▲ 10
	環境・プロセス	174	190	★ 190	+15	-
	医用	251	260	260	+8	-
	半導体	533	600	★ 560	+26	▲ 40
	科学	261	280	★ 280	+18	-
	合計	1,953	2,120	★ 2,070	+116	▲ 50
営業利益	自動車	76	80	65	▲ 11	▲ 15
	環境・プロセス	10	14	14	+3	-
	医用	19	20	20	0	-
	半導体	156	190	★ 170	+13	▲ 20
	科学	4	6	6	+1	-
	合計	268	310	★ 275	+6	▲ 35

<自動車>

ECTビジネスでの受注動向を勘案し、
売上高を下方修正
米国での一時費用、FuelCon社(独)買収費用の
発生、開発力強化に向けた投資の増加
などから、営業利益を下方修正

<半導体>

直近の受注動向を勘案し、
通期予想を下方修正

<環境・プロセス、医用、科学>

通期予想の修正なし

全社では昨年実績を上回り、
過去最高を更新する見通し

3. 為替の売上高・営業利益への影響

2018年1-9月期 為替影響額(前年同期比)

売上高 +9.8億円 営業利益 ▲2.2億円

	売上高			営業利益		
	合計	USD	ユーロ	合計	USD	ユーロ
自動車	+6.6	▲ 1.3	+4.8	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.0
環境	+0.4	▲ 0.5	+0.6	+0.5	+0.0	+0.3
医用	+2.8	▲ 0.6	+3.7	▲ 1.0	+0.0	▲ 0.6
半導体	▲ 1.7	▲ 3.9	+0.3	▲ 1.4	▲ 3.2	+0.2
科学	+1.6	▲ 1.5	+2.9	+0.1	▲ 0.0	+0.1
合計	+9.8	▲ 7.9	+12.5	▲ 2.2	▲ 3.3	+0.0

※アジア通貨等の影響により、上記2通貨の影響合計が
全社での影響合計に一致していません

為替感応度(2018年通期予想)
1円円高による売上高/営業利益の影響額

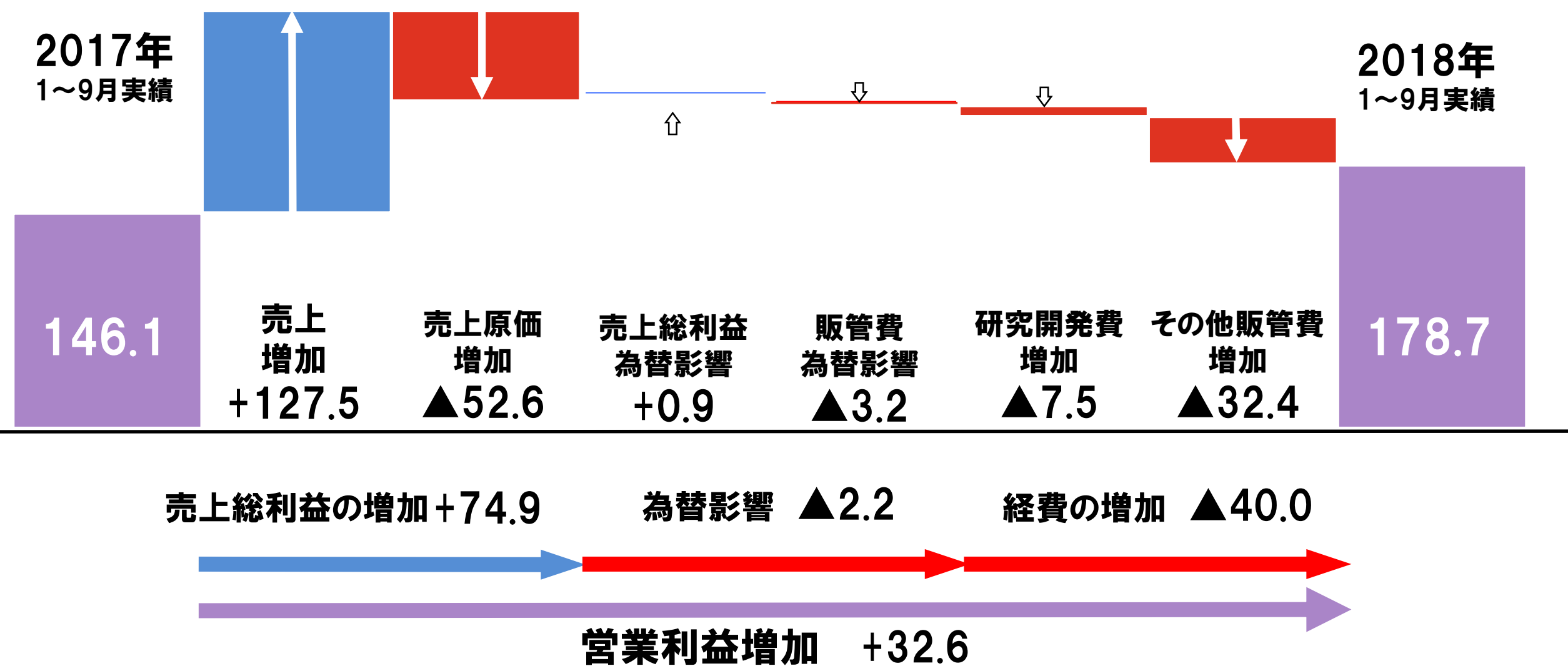
売上高
USD 4.6億円
ユーロ 3.2億円

営業利益
USD 2.0億円
ユーロ 0.2億円

(円)	2017		2018	
	1-9月平均実績	1-12月平均実績	1-9月平均実績	1-12月予想
USD	111.89	112.16	109.60	110.00
ユーロ	124.58	126.70	130.87	130.00

4. 営業利益分析(前年同期比較)

(単位:億円)



5. 受注の状況

(単位: 億円)

半導体スローダウンも、自動車の好調により受注残が1,000億円を超える

	受 注					受 注 残		
	2017		2018			2017		2018
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	3Q末	4Q末	3Q末
自動車	222	230	188	229	220	627	578	733
環境・プロセス	50	49	43	47	48	55	51	56
医用	60	68	72	60	62	39	41	44
半導体	131	177	190	124	110	76	107	78
科学	75	85	65	59	76	99	101	107
合計	540	611	560	522	517	898	879	1,019

6. 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位:億円)

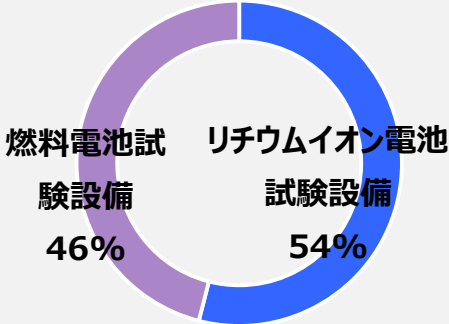
進捗を勘案し下方修正ながら、前年を上回る設備投資額を予想

	2017年	2018年通期予想			2017年 1-9月	2018年 1-9月
	通期実績	前回予想 (8/3時点)	前回予想 (11/9時点)	vs 前回予想		
設備投資額	116	160	140	▲ 20	83	74
減価償却費	75	75	75	-	56	52
研究開発費	139	155	155	-	100	109
(対売上高比)	7.1%	7.3%	7.5%	+0.2p	7.6%	7.5%

7-1. ビジネス領域の拡大に向けて（FuelCon社買収）

FuelCon社の買収

- 電動化車両のバッテリーや燃料電池の試験設備の開発を手掛けるドイツ企業
- 燃料電池に関する多彩な試験設備を所有
- ドイツの自動車メーカーを中心とした納入実績

設立	2001年	売上高構成比 
売上高	11,504千EUR(2017年度実績)	
営業利益	199千EUR(2017年度実績)	
従業員数	62名（経営者除く）	
所在地	ドイツ東北部のマクデブルク（ベルリン西約160km）	
主要顧客	Volkswagen、BMW、Audi、Hyundai、Boschなど	

HORIBAグループでのビジネス領域の拡大

	電動化車両 (HEV, PHEV, FCEV等)			
	車両	駆動系	エンジン	バッテリー/FC
計測機器 (EMS/MCT)	HORIBA	HORIBA	HORIBA	HORIBA FuelCon
試験手順	HORIBA	HORIBA	HORIBA	HORIBA HORIBA FuelCon
エンジニアリング (ECT)	MIRA	MIRA		MIRA

FuelCon社の経験・ノウハウを活用して、電動化車両の開発ビジネスを拡大

7-2. ビジネス領域の拡大に向けて(UCI支援)

カリフォルニア大学アーバイン校(UCI)新研究所に支援

- HORIBAモビリティ・コネクティビティ研究所(HIMAC※¹)設立のための支援契約をUCIと締結
- EPA※²など米国規制当局から信頼が厚いUCIのエネルギー分野の研究で、産学連携強化

※¹ Horiba Institute for Mobility and Connectivity / ※² United States Environmental Protection Agency (アメリカ合衆国環境保護庁)

HORIBAグループでのビジネス領域の拡大



変化するエネルギー産業全体でHORIBAの分析・計測技術が貢献

エネルギー生産

輸送・蓄電

消費・環境



セミコンジャパン2018 HORIBAブースツアー開催

日時: 2018年12月12日(水) 11時~/14時~(各回40分)

場所: 東京ビックサイト セミコンジャパン2018 弊社ブース内

概要: 半導体事業責任者による、製品、市場状況、戦略の説明

申込: 事前申込制とさせていただきます(各回定員10名)

参加ご希望の方は、メールにてご連絡ください。

堀場製作所 経営管理部 IR・企画チーム 鈴木 宛 minako.suzuki@horiba.com

セミコンジャパン2018
ウェブサイトにて
事前登録をお薦めします→



SEMICON[®]
JAPAN

<http://www.semiconjapan.org/jp/>

皆様のご参加をお待ちしております！

Thank you

Omoshiro-okashiku
Joy and Fun

おもしろおかしく



감사합니다

Cảm ơn

ありがとうございました

Dziękuję धन्यवाद

Grazie

Merci

谢谢

நன்றி

ขอบคุณครับ

Obrigado

Σας ευχαριστούμε

Tack ska ni ha

شُكْرًا

Большое спасибо

Danke

Gracias